

民話で日本文化を紹介する

酒井 董美^{ただよし}

神奈川県逗子市に株式会社SELICがある。ここは公益社団法人日本外国特派員協会(FCCJ)のメンバーとして登録されており、10年前に出来た会社であるが、官公庁と連携を取りながら、最新技術情報の市場動向を見極め、海外にそれを発信したり、海外の情報を日本の顧客に紹介したりしている。その業務の一環として、わが国の文化を外国に理解させることも行っているという。

ところでここで筆者とこの会社の関わりを述べておかなければならない。筆者はこれまでの間、口承文芸研究者として活動しており、山陰地方の民話やわらべ歌を、鳥取県の場合、鳥取県立博物館、島根県の場合は出雲かんべの里それぞれのホームページに、伝承者の声で聴けるように登録を続けている、

このことがこのほどSELIC社の目に留まったのである。先月25日に出雲かんべの里に同社の統括マネージャー・石川千秋氏が筆者に会いに来館され、話をうかがった。日本文化を外国人に理解してもらうのに、わが国の伝承民話を翻訳して冊子化しようと、検索した結果、出雲かんべの里公開のホームページで民話を見つけ、それを活用しようと考え訪ねてきた、とのことだった。このとき筆者としてはQRコードで民話の聴ける『鳥取の民話』と『島根の民話』を献本しておいた。

一ヶ月ほど経った昨日の28日、石川氏からメール連絡があった。まとめて述べると以下のようなになる。本にするのは次の7カ国語である。日本語・英語・アラビア語・スペイン語・イタリア語・ウクライナ語・フランス語。

そして選んだ話は次の5話である。①大判が怖い話(松江市八束町・足立チカさん・明治27年生)。②むすびを食べた地藏様(鹿足郡吉賀町注連川・小野寺賀智さん・明治23年生)。③海老と大鳥(浜田市三隅町古市場・西田丈市さん・明治26年生)。④若返りの水(隠岐郡知夫村多沢・小泉ハナさん・明治23年生)。⑤極楽と地獄(隠岐郡海士町御波・前田トメさん・大正3年生)。これには解説もつけ、語り部の音声も聴けるよう、出雲かんべの里ホームページに登録した話のQRコードをつける。またカラーのイラストを筆者とコンビを組んでいる福本隆男氏(埼玉県三郷市)にお願いしたい、だった。筆者はさっそく福本隆男氏に電話で了承を取り、続いて採用された話は方言で語られているので、必要な語句を共通語に直したり、解説を補ったりして送っておいた。

SELICでは、来月から外国人スタッフによって、それぞれの国の言語への翻訳を開始し、表紙は松江市八雲町で作られる出雲民芸紙を使用し、和綴じで和風のような表紙にし、日本らしさを出した本に作り、それぞれの国に出したい、とのことであった。

それにしても、どうなることかと思っていたが、民話で日本文化を代表させて外国に紹介しようとは、なるほど考えたものだと感じる。わが国の先祖の方々の信仰、風習、人生観がここには詰まっております、しかも読んで面白いのが民話である。これまで研究を続け出版したり、語り手の音声をホームページに đăng載したりしてきた筆者であるが、後期高齢者になってようやくその努力が報われつつあるのを覚え、て語ってくださった方々の笑顔を思い浮かべながら、今後の成り行きを見守っているといるところである。